

---

# 亀の甲羅に乗って

雨宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

亀の甲羅に乗って

### 【コード】

N9989X

### 【作者名】

雨宮

### 【あらすじ】

ややこしい。すつごくイライラする人も居ると思います。

公園のベンチに、リア充っぽい男女が腰掛けています。

「今日はいい天気だねえ。」彼は言いました。

『あのドラマの再放送、見逃せないねー』彼女は言いました。

「ああ、あのドラマ？見逃したらショックだよねー」彼は言いました。

『なんかお腹すいたねー』彼女は言いました。立ち上がりました。

「そうだねー、お腹すいたねー。食べに行こうかー」彼は言いました。立ち上がりました。

『私はファンタジー好きよ。』彼女は言いました。歩きました。

「あー、わかるそれ。CGとかオレも大好きだよー」彼は言いました。歩きました。

『あれ、無くした漫画の帯がバッグに入ってた』彼女は言いました。「まじかー、よかったじゃん、ずっと探してたしねー」彼は言いました。

『このお店、料理がとても美味しいって聞いたわ』彼女は言いました。立ち止まりました。

「そうなんだー、じゃあ入ってみるかー」彼は言いました。立ち止まりました。

二人は入りました。

『美味しそうな匂いでお腹いっぱいになりそう』彼女は言いました。席に着きました。

「そうだねー美味しそうだねー、何食べようかー」彼は言いました。席に着きました。

『あの映画のラストは泣けた』彼女は言いました。料理を注文しました。

「そうだよねーアレは、悲しすぎるといっつか」彼は言いました。料

理を注文しました。

『亀って可愛いと思う?』彼女は言いました。

「え?亀?」彼は言いました。

『猫って可愛いと思う?』彼女は言いました。

「え、ああ、猫か」彼は言いました。

『犬って可愛いと思う?』彼女は言いました。料理が来ました。

「犬!?ちよつと苦手かなあ・・・」彼は言いました。料理が来ました。

『・・・ミルクは入れるわよね』彼女は言いました。料理を食べました。

「何に?」彼は言いました。料理を食べました。

『砂糖は?』彼女は言いました。料理を食べ終わりました。

「え、だから何に!?!」彼は言いました。料理を食べ終わりました。

『美味しかったわねえ。』彼女は言いました。店を出ました。

「そうだねえ。」彼は言いました。店を出ました。

『いつかはウミガメを飼いたいわね』彼女は言いました。

「そうかなあ。」彼は言いました。

『いつかはウミガメに乗りたいわね。』彼女は言いました。

「そうだねえ。」彼は言いました。

『いつかは、』彼女は言いました。

「?」彼は言いました。

『結婚したいわねえ・・・』彼女は言いました。

「・・・ああ。そうだねえ。」彼は言いました。

あるひあるところにリア充っぽい老夫婦が居ました。

『幸せねえ』彼女は言いましたとき。

「幸せだねえ。」彼は言いましたとき。

おしまい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9989x/>

---

亀の甲羅に乗って

2011年10月28日21時02分発行